

平成 28 年度第 1 回（通算第 79 回）

山口国際文化化学研究会へのおさそい

教員世話人 川口喜治

院生世話人 岡村理恵 小川大貴 陳 鶴丹

荒木麻耶 ビジネス・ILU・Iライン

- 日時 平成 28 年 4 月 27 日（水曜日） 16 時 10 分より
- 場所 国際文化学部棟 C12 教室
- 主催 大学院国際文化学研究科
- 発表者 倉田研治 国際文化学研究科准教授

「 地域とメディアデザイン - GIS の視点から - 」

要旨

あまり聞きなれない GIS（地理情報システム）という言葉、実は身近なマップ検索、カーナビゲーション、気象情報やガス・電気などのインフラ管理にも使用されています。この他にも、都市計画、農地管理など様々な分野の情報管理・集積、分析、可視化において活用されています。

日本では、平成 7 年の阪神淡路大震災を契機に GIS に関する本格的な取り組みが開始され、国土空間データ基盤の整備が進められ、平成 23 年の東日本大震災では、地理空間情報が活用され国土院による災害復旧計画基図など復興計画に貢献しています。この他に、GIS の活用を取り巻く国内での動向としては、2015 年に日本学術会議からの提言により高等学校での地歴必修化が決まり、教育現場での GIS 活用が議論されている。

GIS 活用において、現在のトレンドは防災やリモートセンシングですが、ここでは地域や文化的な視点を題材とします。事例とこれまで進めてきた研究から、地域とメディア表現やテクノロジーがつながる仕組みづくり、地域資源への適用や文化的な活用展開などについてお話しします。